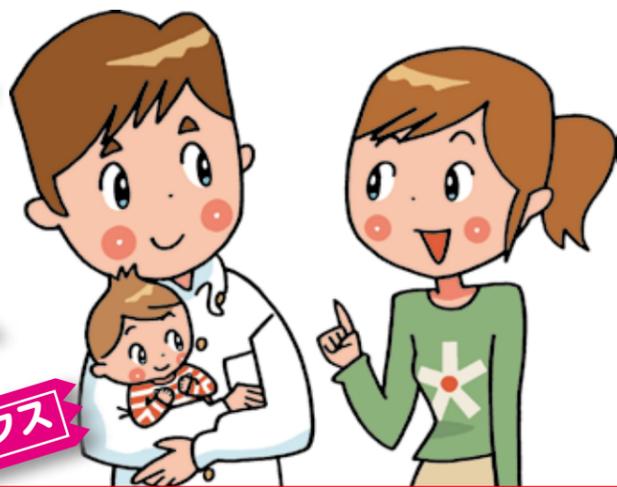


知って防ごう 子どもの事故



トピックス

乳幼児揺さぶられ症候群 (SBS) に注意!!

子どもは激しく揺さぶられると、首の筋肉が未発達なために、脳が衝撃を受けやすい状況にあります。その結果、重い脳障害や視力障害をきたし、場合によっては命を落とすことを、**乳幼児揺さぶられ症候群 (Shaken Baby Syndrome)** といいます。とくに首がすわっていない時期は注意が必要です。

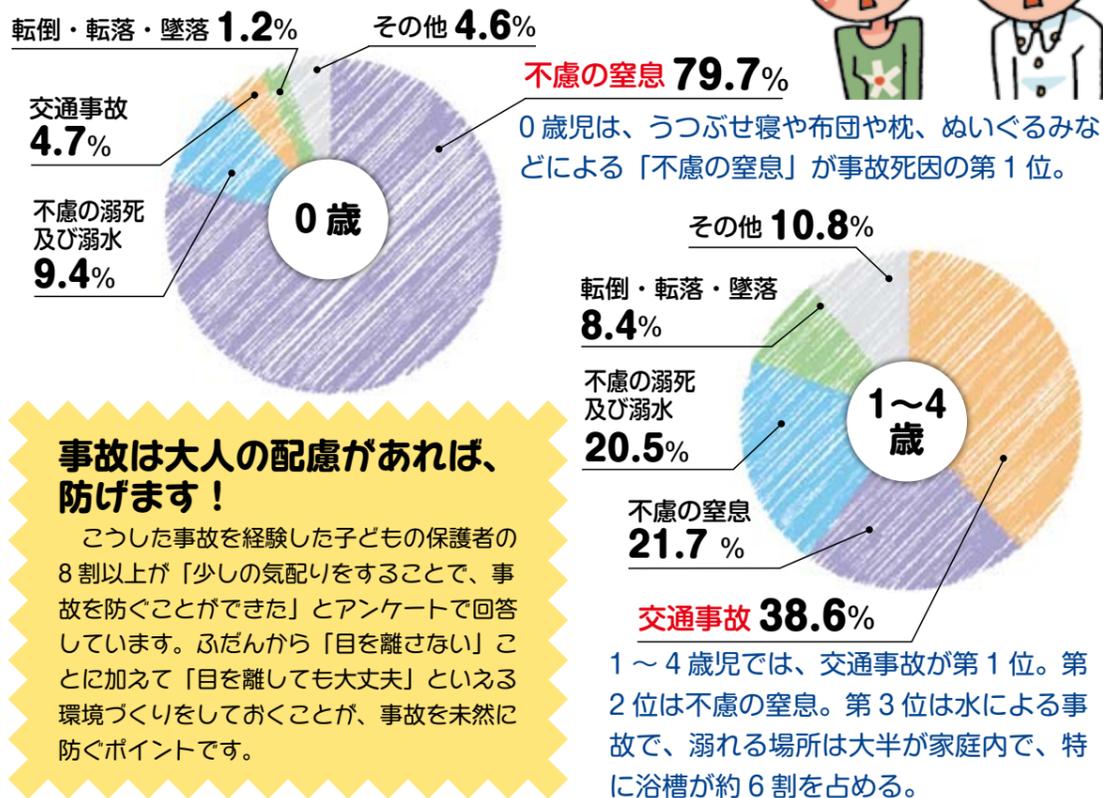
また、個人差はありますが、生後1~2か月に泣きのピークがあり、何をやっても泣きやまないことが多いといわれています。しかし、泣きやませようと、そして遊びであやすときにも、絶対に激しく揺さぶらないでください!

えっ! 死亡原因の上位は「不慮の事故」

乳幼児の死因のうち、事故によるものが大きな比率を占めています。「ちょっと目を離した際に……」起きる出来事が命取りに。大切な子どもを守るために現状と対策を知り、事故を未然に防ぎましょう。

事故の多くは家庭の中で起きている!

◆不慮の事故死の内訳 平成30年(2018年)人口動態調査(厚生労働省)



多くの子どもが事故で命を落としています

◆起きやすい主な事故の種類

転倒・転落 平衡感覚が十分発達していないこと、体に比べて頭が大きく重いため重心の位置が高いこと、視野が大人に比べて狭いことが関係している。けがにつながりやすく、頭を強打した場合は命に関わることもある。

窒息 気道のどこかが何らかの原因でつまってしまい、呼吸ができなくなった状態。急に顔色が悪くなったり、咳き込んだり、ヒューヒュー、ゼイゼイして苦しそうな呼吸をするときは窒息のサイン。

溺水(溺れ) 肺に水が入って呼吸ができなくなり、窒息と同じ状態が起こる。海や川やプールよりも、家庭内(おもに浴槽)で多く起きているのが現状。ほんの少量の水でも危険性が高く、10cmの水深でも注意が必要。

交通事故 自動車による事故には歩行中の事故と自動車に同乗していたときの事故との2通りがある。子どもは好奇心が旺盛で動きが活発なため、関心のあるものにとらわれて車道に飛び出しがちなので注意。自動車内でチャイルドシートを使わないことによる死亡事故も少なくない。

事故は大人の配慮があれば、防げます!

こうした事故を経験した子どもの保護者の8割以上が「少しの気配りをするだけで、事故を防ぐことができた」とアンケートで回答しています。ふだんから「目を離さない」ことに加えて「目を離しても大丈夫」といえる環境づくりをしておくことが、事故を未然に防ぐポイントです。

年齢別にみる発達と事故例

成長とともに好奇心が増し行動が活発化する一方で、危険性を予測できず、怖いという感覚がないなどの子どもの特徴が、思わぬ事故を招きます。

0~8か月頃

ねんね、寝返り、お座りの時期

ねんねの時期は自分で体を自由に動かすことができない。3か月頃から足や手をバタバタさせるように。5~6か月頃からは寝返り、お座りができるようになるとともに、見たものに手を出したり、口の中にもものを入れたりする。

事故の例

- うつぶせの状態のまま寝かせていて息をつまらせた **窒息**
- 入浴中、誤って浴槽に落とした **転落 溺水**
- ソファに寝かせていたら転落した **転落**
- 熱いシチューの入った容器に手を入れてしまった **やけど**

1~2歳頃

頻繁に歩き回り、走ったり、よじ登ったりする時期

1人歩きができ、手足が器用になって小さなものを指でつまむことができる。2歳頃には走ったり、よじ登ったりと常に動き回るように。好奇心から、ものを触る、出す、落とすなどの行動も活発に。

事故の例

- ベランダで階下をのぞきこんで転落した **転落**
- 床に落ちていたおもちゃにつまずいて転んだ **転倒**
- なべに手をかけてやけどした **やけど**
- 豆を食べていてのどにつまらせた **窒息**

9~11か月頃

はいはい、つかまり立ちの時期

自分で動き回ることができるようになり、行動範囲が広がる。興味を持ったものに近づき、手にしたものは何でも口に入れてしまう。

事故の例

- テーブル上の湯のみに手を出し、熱いお茶がかかった **やけど**
- つかまり立ちから転び、テーブルの角に頭をぶつけた **転倒**
- 水が入った浴槽に転落した **転落 溺水**
- たばこ、薬、おもちゃ、洗剤などを誤って飲みこんだ **誤飲**

3~5歳頃

跳んだり、走ったりする時期

高いところへ登って飛び降りたり、階段の昇り降りをしたりなど運動機能が著しく発達。自立心が芽生え、自己主張が強くなって何でも自分でやりたがる。また、大人の言うことが理解でき、大人の行動のまねをよくするようになる。

事故の例

- ライターで遊んでいてやけどした **やけど**
- 三輪車に乗っていて転んだ **転倒**
- ビニール袋をかぶって息をつまらせた **窒息**
- 道路に飛び出して車と接触した **交通事故**

あっ! 危ない!

「ちょっと目を離した際に…」起こる致命的な事故から子どもを守ろう

イラストを参考に、屋内と屋外を点検して「目を離しても大丈夫」といえる環境を作りましょう。

いまずぐ チェック

- 転倒・転落
- 窒息
- やけど
- 溺水
- 交通事故



転落して頭を強打する

- 1 **ベビーベッド・ソファ**
ベットの柵が一番上まで上げる。ソファには寝かせない。
- 2 **ベランダ**
踏み台になるものは置かない。ベランダに出ないようにガラス戸に鍵をかける。
- 5 **階段**
ひとりで昇り降りしないよう、柵を設ける。

転倒して口の中をけがする

- 11 **長いおもちゃ・歯ブラシ・箸など**
口にくわえたまま遊ばせない。

転倒して頭を強打する

- 13 **自転車**
子どもを補助いすに乗せたまま止めておかない。ヘルメットを着用させる。

息ができず窒息する

- 1 **寝具**
柔らかい布団や枕を使わない。顔を覆ってしまうぬいぐるみなどは置かない。
- 8 **ビニール袋**
ビニール袋は手の届かないところにしまっておく。

ひもで首がしまつて窒息する

- 3 **ブラインド**
ブラインドのひもは手の届かないところに下げる。
- 14 **すべり台**
ひもやフード付きの服は着せない。水筒やかばんは外して遊ばせる。

誤って飲み込んで窒息する

- 9 **おもちゃ・日用品**
直径 39mm 以下のものは、床から 1m 以上の高さの所に置く。

熱湯や家電製品でやけどする

- 4 **なべ・電気ケトル・炊飯器・アイロンなど**
触れないように近くで使用しない。台所に入れないようにする。

服に火がつく、火災になってやけどする

- 10 **ライター・マッチなど**
火の元になるものは手の届かないところにしまっておく。

湯・水の中におちて溺れる

- 6 **浴槽**
浴槽内の湯は抜いておく。風呂場に入れないように鍵をかける。
- 7 **洗濯機**
ふたを開けないようにする。踏み台になるものを置かない。

交通事故にあう

- 12 **車道・三輪車・自動車内など**
道路で遊ばせない。三輪車に乗せるときは目を離さない。チャイルドシートを着用する。

事故の危険は、まだまだひそんでいます。ほかにも探してみましょう。